

ヨードチンキ	消 毒 液	1
ロート目薬		2
マイテイア		2
オロナイン	軽 火 傷	10g × 3
レダコート	湿 疹	5g × 5
ピチロールパスタ	皮 フ 炎	30g × 1
ム ヒ	虫 さ さ れ	1
日焼止めクリーム		1
〃 オイル		1
リップクリーム		1
メンソレータム		2
パテックス	湿 布	5 × 4枚
ガ ー ゼ		30cm × 10m
繃 帯		大中小 各2
脱 脂 綿		20g
油 紙		2枚
絆 創 膏		3巻
バンドエイド		80枚
体 温 計		3
ハ サ ミ		1
ピンセット		2
眼 帯		2
毛 ぬ き		2
タ オ ル		1
爪 切		

## 1 輸 送

苗 村 元

(1) 大阪—アンカレッジ

今回の遠征で一番懸念されたことのひとつに、この物資の輸送があった。と  
というのは、日本からアラスカへ運行している船は不定期の貨物船だけで数  
も極少なかつた。また海運組合との問題等もあって、それに便乗することは  
難かしく、我々の場合は徒労に終わった。他の方法としては、シアトル回りの  
船便郵送と航空便郵送があるが、前者の場合は日数が思わぬ程かわり、受取  
りにはかなりやっかいな操作を必要とした。後者は問題にならない程費用が  
高かつた。それに今期間中にはアメリカ西海岸一帯でストライキをして  
おりトラブルに巻き込まれることは必至であった。そこで我々自身が直接空  
路にて運ぶという方法をとった。この方法には二通りあり、航空手荷物とし  
て人間と同じ飛行機で運ぶものと、別送荷物として国際航空荷物代理店を通  
じて運ぶものがあつた。出国の際には、現地での受け取りに時間がかから  
ない前者の方法をとり 帰国時には後者の方法をとった。航空手荷物として  
運ぶということは、1名につき20kgまで許される手荷物量から超過する重  
量だけ料金を支払うというもので、常に自分で運ばなければならない、通関も  
同様であつた。空港で荷物をかかえて何回も往復しニガ笑いされるが、本人  
にとっては一番安心な方法であつた。料金はSKY FREIGHTの適用を受  
け普通の半額である。ただし一人分の超過としないとスライドレイトの関係  
で高くなるのと、身の回り品であるという規定があるので、うまく処理しな  
いといけない。幸い我々の場合は航空会社側で善処していただけた。帰国の  
際には航空会社の貨物取扱所で簡単に引き受けてくれた。パスポートもいら  
ず、ただ料金を支払うだけであつた。ただし日本での受け取りにかなりの日  
数を要した。概して日本側の空港や税関、代理店にくらべ、アンカレッジ側  
はそれ程厳密な取調べがなく、そのルーズさで助けられた。またこれだけの  
苦勞をせず大半を現地購入することも可能である。空輸料金はかなり高いか  
ら、その予算を購入に加算することができる。荷が少なければそれだけ1kg  
当たりの超過料金も高くなるから、この辺の計算が肝心である。もし一人20  
kgの荷で出国できるならば、この方がかなり得策だといえる。

## (2) アンカレッジーパクソン

この間には、定期バスが走っているのだから、これを利用した。このバスはかなり高速で走り、荷も充分積める。我々の荷でも、三ヶ所ある倉庫のうちの二つに修まったほどである。荷物代は取られなかった。一人につき、積める量の規定があるらしいが、我々が乗った頃は時期が早く他の客は3~4人という時であったから問題なかった。ただし最盛期になるとそうもいかないであろう。他にレンタカーの利用も有効であろうが、乗り捨て場所に困まる。我々の場合は、アンカレッチ市内だけに利用した。

### (3) バクソン—スツトナ氷河

もし短期間の計画であれば徒歩にて入山することも不可能ではないが、渡渉、ラッセルなどで思わぬ日数をとられる。多量の物資を運ぶとすれば、この国においては飛行機しかない。幸い世界一飛行機が発達した土地で、氷河に降りることを商売とするブッシュパイロットなる人がいる。この契約はいたって簡単で日本から連絡すると、アンカレッチに着いたら電話してくれという返事であった。その通りすると、今度はバクソンに着いたら電話をくれという返事。またその通りすると、明日行くという返事で、その通り飛んで来た。要するにタクシーで契約書などというものは一切ない。ただしどこでも飛ぶということはもちろんなく、気に入らない場所なら断られる。機種はセスナスカイワゴンという軽飛行機でソリがついている。人間はパイロットを入れて4名乗り、そこへ約170kgの荷物(ダンボール箱4個、アタックザック3個)が積めた。ただしこの機は最初の一回だけで、この時転覆という憂目にあった。以後パイパースーパーカブという、パイロットを入れ2名しか乗れない小さな機が使われた。これには約120kgの荷(ダンボール4個、アタックザック1個)が積めた。セスナ1回とパイパー3回の飛行で空輸を完了した。パイパー一機で運んだ荷は全てエアードロップしたが、予期していなかっただけに損害は大きかった。下山時にはなるべく軽くしてくれとのことだったので、装備等を放棄せざるを得なかった。パイパー3回の往復で下界へ出ることができた。

尚、輸送に関してご支援いただいた方々、並びに現地でご協力いただいた